



久遠塾

君の世界に芽生えるものは
vol. 14



かたおか あすか
片岡 明日香

地理っ子クラブ

6月24日に開催した地理っ子クラブでは、ポーランドのアウシュヴィッツ博物館のガイドである、中谷剛さんをオンラインでお迎えし、お話をさせていただきました。

中谷さんは、1997年に公認ガイドの資格を取得した後、アウシュヴィッツ博物館で唯一の日本人ガイドとしてお仕事をされています。中谷さんは著書の中で『『わかりやすい』説明かどうかに、ガイドとしての力量が問われる』と述べています。実際、中谷さんのお話はとてもわかりやすく、言葉の一つひとつが心にストンと落ちてきて、じわーっと広がっていくような感じがしました。

後日、地理っ子クラブに参加しただけの方々の感想や質問を

メールでお送りしたところ、その全てにお返事をいただきました。今回は、その一部を紹介します。

◇死の壁についてもっと詳しく知りたいと思いました。

死の壁はナチス・ドイツの国家秘密警察（ゲシュタポ）が逮捕した抵抗組織のリーダーたちを銃殺したところですが、世界の平和のためには戦った人々たちだったので、今では英雄たちを追悼する場所になっています。



多くの人が銃殺された死の壁

◇なぜそんなにユダヤ人に敵しいのだろうか、と思いました。

素朴な疑問ですが、これが重要で難しいのです。だから世界のどこかで戦争や紛争があります。でも私たちは決してユダヤ人のせい

にしません。ユダヤ人たちが嫌ってきた人たちに問題があります。

◇「戦時中は、ユダヤ人大量虐殺は国のため、と正当化しやすい環境にあった」とおっしゃっていましたが、それでも心を痛めるドイツ軍人はいなかったのでしょうか。

人々は何かに追い込まれると理性を失うようです。悪者を見つけなくなるようです。当時はスペイン風邪という伝染病がはやってたり、第一次世界大戦でたくさんの方が殺されたり、世界大恐慌という経済不況も重なりました。最初にドイツ人の心が痛んでいたのかもしれない。

◇受け入れられる移民も多くいる中、なぜユダヤ人は違ったのかが知りたいです。

学校のいじめを例えにするなら、私たちはいじめられていた人たちにその責任を求めません。ユダヤ人に虐められる理由はなかったと考えます。でもいじめられやすい環境にいたのではないかと。それではいじめた側のドイツ人はなぜそれに気づかなかったのか？そして



前段、私がリトアニアとポーランドを訪れたときの話をしました。

世界の傍観者はどういう心境だったか？つまりホロコースト（大量虐殺）についても身近なことからスタートして考えるべきだと思います。世界で起きている黒人に対する人種差別反対運動もその一つです。黒人に差別される理由などないと私たちは考えますが、差別されやすい環境におかれてきたことは間違いありません。

◇ユダヤ人差別の根深さ、宗教の対立、近年では移民排斥など、ヨーロッパの抱える問題の大変さを改めて実感しました。

日本でも日本人として、もしくは健常者として多数派にいると気